



保護者・地域のみなさまにおかれましては、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果をまとめましたので、その概要をお知らせします。本校ではこの調査結果を踏まえ、児童の学力向上に向けて、各教科の指導計画や日常の授業改善に引き続き取り組みます。

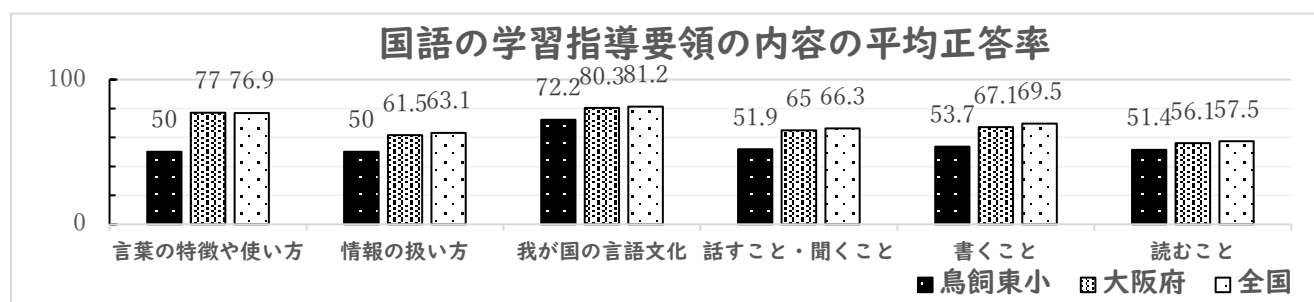
## 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

	国語		算数		理科	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
鳥飼東小 6年生	7.4/14問中	53%	7.3/16問中	46%	7.3/14問中	43%
大阪府	9.2/14問中	65%	9.2/16問中	58%	9.3/14問中	55%
全国	9.4/14問中	66.8%	9.3/16問中	58%	9.7/14問中	57.1%
対全国比	0.79		0.78		0.75	

**国語**・・・全国の平均正答率と比較して「低い」結果でした。

どの領域においても、課題が見られました。漢字が書けていなかったり、記述することについても無答率が高めでした。また、条件に従って記述する問題に不得意さが見られました。し

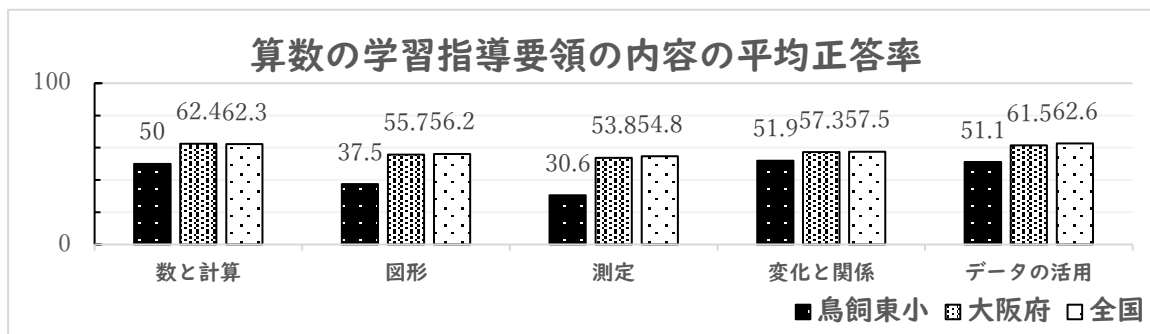
かし、話す、聞くにおいて、話し方の目的等が理解できていました。問題文が読み取れているものは、正答率が高い傾向がありました。記述式においても正答できていました。問題など初見のものに対して、すらすら読み、理解できるように、語彙を増やし、音読を意識的に行う必要があります。さらに、条件を付けた文章を書くことになれる必要もあります。



**算数**・・・全国の平均正答率と比較して「低い」結果でした。

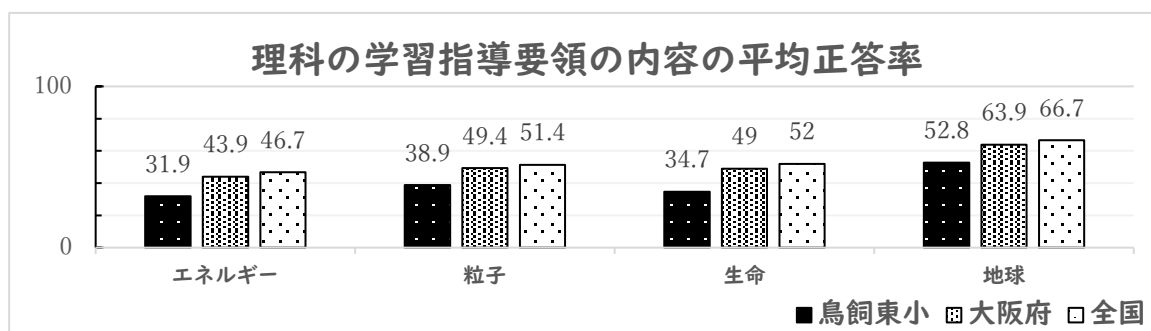
どの領域も、課題が見られました。特に、小数や分数の仕組み、図形領域や測定についての概念が弱い傾向にありました。しかし、全体的に無回答が少なく、何かしら自分の考えを表すことができていました。立式をしたり、根拠を探し、根拠をもとに考えることもできていまし

た。考えないといけない問題より、簡単な計算問題の方が誤答が多く、基礎基本の定着が課題だと考えます。また、問題を日常生活と結び付けることも必要だと感じました。



**理科**・・・全国の平均正答率と比較して「低い」結果でした。

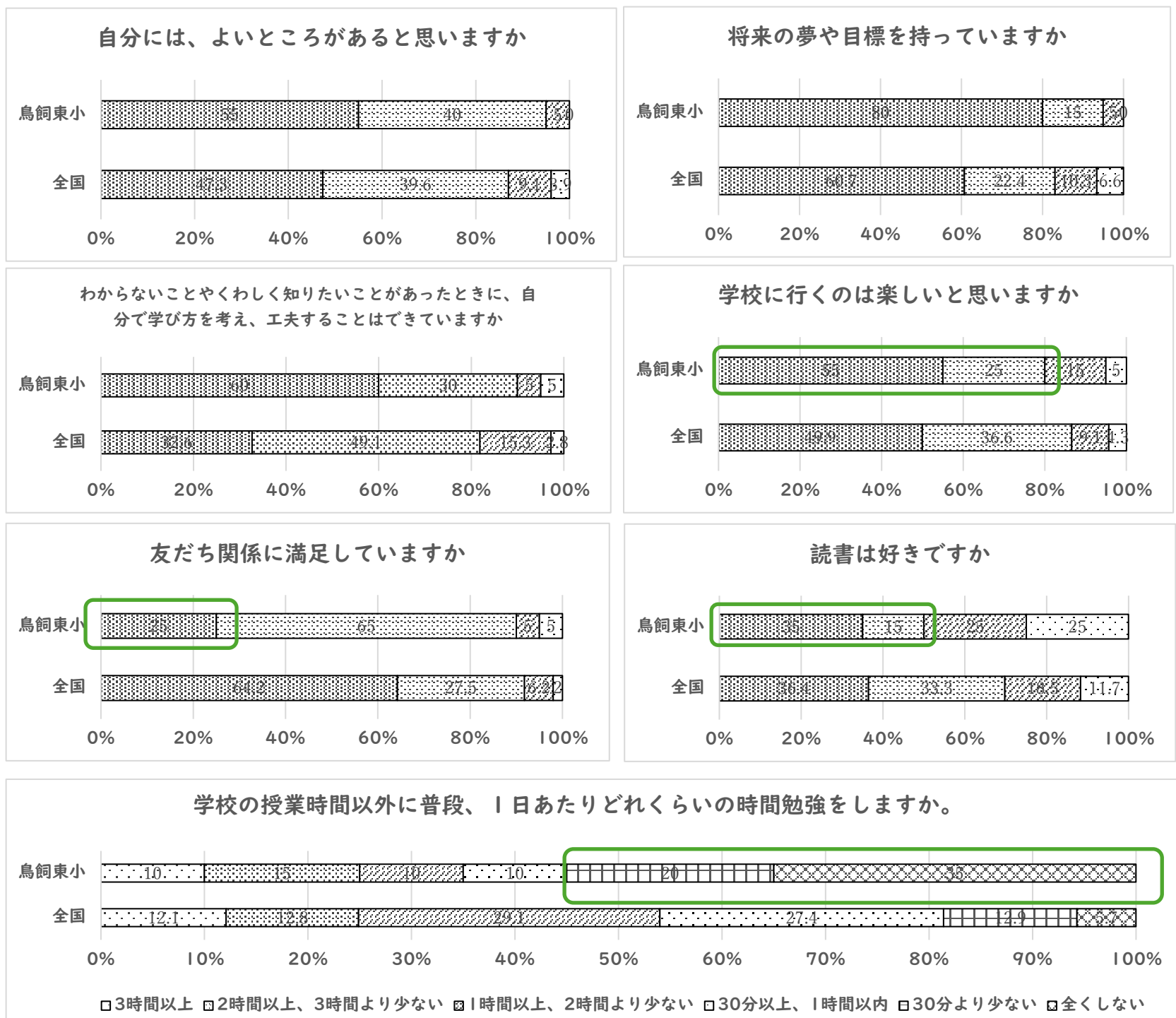
どの領域も課題がみられました。授業での実験などの結果を根拠とともに理解する必要性を感じました。また、生命やエネルギーの領域は、知識の積



み上げが必要であり、授業では理解していても定着するための習熟を行うことが大切だと考えました。

## 質問紙調査

グラフは、左から「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の回答の割合



児童質問紙調査から、将来の夢や目標を持っており、自分によりところがあると思っている児童が全国平均より多く、物事を前向きにとらえられています。また、学習でも、わからないところを自ら解決しようとする態度も全国より高いです。しかし、学校に行くのが楽しいや友だち関係に満足しているがやや低いのが気になります。さらに、毎日の家庭学習の時間が30分より少ない、全くしない児童が半数近くおり、読書が好きな割合も全国に比べると少ないことも課題ととらえています。放課後学校で宿題をしてから下校する児童も多いですが、家庭で学習する習慣を身につける取り組みをさらに進める必要があります。また、本に親しむ機会を増やしたいです。

## 今後の取り組み

- 基礎・基本の定着のため、毎学期、計算力診断テストを行い、それぞれのクラスで課題になるところを中心に「トリトン算数」の時間などに習熟を行います。また、「トリトン算数」では、基礎・基本だけでなく、考える力をつけるための問題も取り入れ、自分の実態に応じた課題に取り組めるようにします。
- 本に親しむ機会や音読も積極的に行う場面を増やします。
- 外部講師を招聘し、研究授業などを行い、自分の考えの表し方や伝え方の工夫などを身に着けることができるような授業改善の推進を行います。
- 五中校区での「こどもの発達を支える生徒指導に関する学校づくり」の取り組みを継続し、自分たちで考えて行動し、達成感を持つなど自発的・自治的な活動を充実させます。
- 学校と地域・家庭が連携し、子どもたちを支える取り組みが進められるよう、学校からさまざまなことを積極的に発信し続けます。